



# 国際病理アカデミー

## 日本支部

A NEWS BULLETIN 2001 Number 1

Published quarterly  
by the Japanese Division  
of the International  
Academy of Pathology

### OFFICERS

#### PRESIDENT

R. Y. Osamura, M.D. (03)  
Tokai University

#### PAST PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (03)  
Jikei University

#### PRESIDENT-ELECT

T. Morohoshi, M.D. (03)  
Showa University

#### SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (03)  
National Defense Medical College

#### COUNCILLORS

H. Yamabe, M.D. (01)

Kyoto University

Y. Kato, M.D. (01)

Cancer Institute

S. Mori, M.D. (02)

University of Tokyo

H. Hashimoto, M.D. (02)

University of Occupational and  
Environmental Health

T. Manabe, M.D. (03)

Kawasaki Medical School

M. Tsuneyoshi, M.D. (03)

Kyushu University

#### COMMITTEE CHAIR

##### Education

N. Nemoto, M.D. (03)

Nihon University

##### Finance

M. Shamoto, M.D. (01)

Fujita Health University

##### Nomination

S. Ushigome, M.D. (03)

Jikei University



### IAP日本支部会長に就任して



新会長 長村義之

東海大学医学部

総合診療学系病理診断学

会員の皆様 明けましておめでとうございます。

1月1日より、伝統あるIAP日本支部の会長に就任し、皆様方からご推挙いただいた責任の重大さを感じ身の引き締まる思いがしております。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

ご存知のように、IAPは現在全世界に48の支部があり、我が国はその会員数では米国カナダ(USCAP)約5,100名、ドイツ約1,700名、英国約1,200名、フランス約1,000名、について5位に位置しており(Australasia

支部が約600名で我が国と同じくらい)、その活動も年々盛んになって来ております。昨年10月15日より30日まで名古屋市国際会議場でIAP International Congress(正式名称)が開催され外国から約70カ国、計約800名、我が国からは約600名の方が出席され大変盛会であったことは記憶に新しい所であります。多くの会員の方が旧交を暖め、あるいは新しい友人を作られたことと存じます。国際学会は2002年10月6日から11日までオランダAmsterdam (Jan van den Tweel会長)、2004年にはオーストラリアBrisbane(Robin Cooke会長)で開催されることが決まっており今から出席するが楽しみな予定が並んでおります。また、嬉しいニュースとしては、名古屋でのIAP Executive Meetingおよび総会において牛込新一郎前会長がIAPのPresident-Electに選出されました。我々会員としても、大変名誉なことであり心よりお祝い申し上げ、引き続きご指導をお願い致す次第でございます。牛込先生は、2004年にBrisbaneで行われる国際学会の際にIAP本部の会長としての大役を果たされることになります。

さて、今後のIAP日本支部の使命は、これまでの先輩諸氏が築かれてこられたように、IAPの国際組織を背景とし我が国の病理学の国際活動と病理医の育成、生涯教育にあると思います。IT時代となった現在、この両者は一体化しつつあり、各国間で疾病の種類の差異はあるものの多くの情報は国際的に共有できるようになってきています。我々は、どんどん諸外国の情報を取り入れて我が国での病理診断の実践に生かすべきですし、またその機会を出来るだけ提供するのがIAP日本支部の役割だと思います。そのため、昨年より米国よりSteven G. Silverberg教授をCourse Directorに、またJohn Epstein教授を講師に迎えSurgical Pathology Updateを企画しました。神奈川県葉山市にある湘南国際村に約50名の病理医の先生方が3日間寝起きを共に合宿しlectureを聞き、乳腺、前立腺標本のdiscussionを行い大いに討論しました。夜は、リラックスして講師の先生や普段交流のない日本各地の先生方と雑談に花を咲かせる時間もありました。若い病理医の方のご出席も多く英語でのdiscussionも活発であり非常に好評であり喜んでいます。今年は6月15日から17日までSilverberg教授とVirginia Livolsi教授を迎えて卵巣と甲状腺を取り上げ行います。奮ってご参加ください。

また、例年の日本病理学会秋期特別総会の翌日に開催される教育シンポジウム、スライドセミナーも参加者の数を増やし年々活発になってきています。ハンドアウトの作成など講師の先生方にお手を煩わせることになりますが、出席される先生方には実に有用なものであると思います。経済状況が許せば、使用した症例のカラースライドなど配布するようにしたいと思っていますが、Webに乗せる時代の方が早く来そうです。それも今後我々が、早急に取り組むべき課題だと思います。

また、外国の病理医との交流を積極的に進めたいと思います。こちらから外国の学会へ出席する、あるいは外国から病理医が来日した際には交流する機会を作るなどです。私は、現在USCAP (US Canada Academy of Pathology) でアメカの仲間と Endocrine tumors の Short courseをやっており毎年出席していますが、あの活気は凄いものです。毎年20名程は日本からも出席されていますが、是非、若い病理医の方にも勧めたいと思います。また、アジア、オセアニア (Asia-Pacific) 諸国の病理医との交流も極めて重要です。幸い昨年の国際学会にもアジア、オセアニア(Asia-Pacific)からも多数の出席がありました。

アジアということでは特に隣国の韓国とは2年ごとに相互で開催してきた日韓合同スライドカンファレンスJapanese-Korean Joint Slide Conferenceがあります。今までに6回も続いてきて、毎回熱心な討論と友好を深めています。今年は第7回で川崎医大の真鍋理事に Congress Presidentをお願いすることになっています。

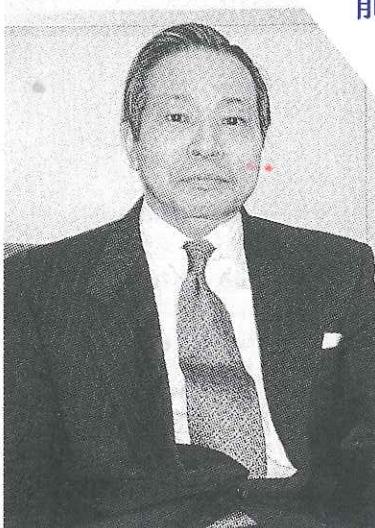
これまで2回行われてきたJapan-Korea-Australasia-Hong Kong(JKAHK) Meeting on Pathology も次回は3rd Asian-Pacific IAP Meetingと名称も変更され、より多くの国からの病理医の参加を求め活性化することになりました。2003年にタイで開催されることが決定されています。今後も諸外国で開催される病理関係の学会の情報を会報にて提供するにより徹底したいと思っています。

我が国の、病理学を取り巻く環境も“大きくグローバル”を考え明るい雰囲気で活動したいものです。その推進もIAP日本支部の役割と思っています。1月1日からIAP日本支部は諸星利男次期会長、松原 修常任幹事、根本則道教育委員長、それに私で走り始めました。新世紀を迎えるIAP日本支部の活動がより広く展開し益々発展しますよう諸先輩、会員諸氏のご支援を宜しくお願い申し上げます。（6th Thai-Japanese Workshop on Cytologyに向かう機上にて、2001年1月11日）

wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww

## 日本支部の会長を終えて

前会長 牛込新一郎



IAP日本支部の会長を3年間務めさせていただき、昨年末で満了となりました。名古屋国際会議も無事成功裡に終わり、新しいミレニアムの始まりと同時に長村義之新会長に無事バトンをお渡し出来たことを嬉しく思います。会員の先生方のご協力に心から感謝いたしたいと思います。

IAP日本支部との関わりはスライドセミナーのお世話をさせていただいて以来であります。昭和58年でしたから、18年間の長きになります。当時はスライドセミナーの世話係であって、今日のように教育委員長という名称は出来上がっていませんでした。雑用4年間、理事1年、常任幹事を7年間やらせていただきましたが、病理学の卒後教育の一端に携れたのは誠に幸いであったと思います。諸先輩の有言、無言のご指導には感謝いたしております。さらに、病理学教室の秘書や技術者の献身的な協力があったからこそ、何とか仕事をまつとう出来たのであります。

会員数はその間に倍増いたし、国際会議の時に開催される評議委員会で投票権を持つ評議員を2人から3人に増やすことが出来ました。

アジア太平洋地域における活動も含め、日本支部の役割も理解されるようになったと思います。各種国際会議やUS-CAP Meetingにも参加する機会が増えまして、多数の親しい友人をもつことが出来るようになったことが最大の喜びであります。

次期会長ならびに会長在任中に実行できた事柄は多くはないのですが、やはり、先輩の鈴木実会長の時に、周到な準備を行い、一丸となって第23回国際会議を招致することに成功したこと、さらに多くの方々のご協力によって開催でき、無事に終了したことが第1に挙げられます。このことに関しては前号に紹介させて頂きました。

第2は一昨年秋に、Moon Ho Yang教授を会長として開催された第2回目のThe Conjoint Meeting of the Japanese, Korean, Australasian, and Hong Kong Divisions of IAP and Pathology Associationsがソウルで開催され、日本からも積極的にご参加いただき、日本の病理の力を示していただけたことであります。つづいて、日韓のスライドセミナーも合同で開催されました。アジア太平洋の諸国との病理学交流が盛んになったことは喜ばしいことであります。これに関して、皆様にお伝えしなければならないのは、昨年10月の名古屋国際会議の際に、アジア諸国とオーストラリアからの代表者が一同に会して、将来のことを相談する機会がありました。上記の長い名称を変えてAsia-Pacific Meeting of the IAPと改称し、どこの国からも容易に参加しやすくなりました。物価の安い国で開催する方が良いという意見がでました。早速、2003年1月タイのプーケ島での開催は全員一致した意見でした。その節は日本から是非多数が参加・発表され、楽しく交流し友人を多数つくって頂けたらと期待いたしております。とかく欧米に目が向いてしまう傾向があったと思いますが、近隣諸国と協調し合える関係を作つておくことが基本ではないかと考えております。

第3は日本支部の恒例のスライドセミナーや教育シンポの他に新たな企画であるSurgical Pathology Update 2000が昨年葉山市で第1回が開催されました。これは長村義之先生の発案とSteven G.Silverberg教授が企画に、松原常任幹事らも運営に加わって開催されました。中々好評裡で、今後続けて開催する意義を感じました。サクラ精機を始めとするスポンサーのご援助があって実現できたものであります。

私自身は、この度、IAPのPresident-Electに指名を受けました。まさに青天の霹靂であります。これは、私



ることとなった。プライバシー保護の点から、自宅の住所、電話番号、Email addressを掲載するか否か審議した結果、会報に望まない方は連絡してもらうようにしてはどうかとの提案があり、そのようにすることとなった。

#### 7. その他（次回の理事会の開催日、場所）

春の病理学会第1日目：4月5日（木）12:40-13:40、東京ビッグサイト701会議室

## 添付書類：

1. IAP日本支部理事・役員名簿（松原）
  2. Surgical Pathology Update 2001の寄付依頼の趣意書（長村）
  3. 2001年病理学教育セミナーのこと
    - (1) 教育シンポジウムのアンケート集計（松原）
    - (2) スライドセミナーのアンケート集計（根本）
  4. 第7回日韓合同スライドカンファレンスの企画案（真鍋）
  5. 平成13年度理事指名委員会の構成メンバー（松原）
  6. IAP日本支部2001年度活動計画（松原）

添付：IAP日本支部2001年度活動計画

2月20日（火） 第1回理事会  
東京・グランドヒル市ヶ谷

3月3-9日 USCAP定期総会  
米国・アトランタ

4月5日（木） 第2回理事会  
東京・ピックサイト

6月15-17日（金-日） Surgical Pathology Update 2001  
葉山の湘南国際村

9月8-13日（土-木） 第18回European Congress of  
Pathology ドイツ・ベルリン

9-10月 理事選挙  
理事指名委員会

11月1-3日（木-土） 第7回日韓合同Slide Conference  
岡山・倉敷（真鍋理事がCongress President）

11月27日（火） 第3回理事会  
東京・九段会館

11月29日（木） IAP教育シンポジウム、総会と  
IAPスライドセミナー  
東京・信濃町の東医健保会館

平成13年度理事・役員体制

会長	長村義之	(東海大医学部病理学)
前会長	牛込新一郎	(慈恵会医科大学名誉教授)
次期会長	諸星利男	(昭和大医学部病理学第1)
常任幹事	松原 修	(防衛医大病理学第2)
事務局秘書	佐々木洋子	(防衛医大病理学第2)
理事	山邊博彦	(京大付属病院病理部)
	加藤 洋	(癌研病理部)
	森 茂郎	(東大医科研病理学研究部)
	橋本 洋	(産業医科大病理学第1)
	真鍋俊明	(川崎医大病理学)
	恒吉正澄	(九大医学部病理学第2)
教育担当	根本則道	(日大医学部病理学)
会計監事	社本幹博	(藤田保衛大総医研病態細胞学)

## 平成13年度理事指名委員会

委員長 牛込新一郎前会長

副委員長 鈴木 実前々会長  
赤木 忠厚前々々理事  
丸山 孝士前々々理事  
社本 幹博前々理事

## 今年度の活動予定

- ・**第1回理事会**: 2月20日(火)  
東京・グランドヒル市ヶ谷
  - ・**USCAP定期総会**: 3月3-9日  
米国・アトランタ・マリオットマルキスホテル
  - ・**第2回理事会**: 4月5日(木)  
東京・ビッグサイト
  - ・**SPU2001**: 6月15-17日(金-日)  
神奈川県葉山・湘南国際村
  - ・**European Congress of Pathology**: 第18回学会  
9月8-13日(土-木)、ベルリン
  - ・**理事選挙**: 9-10月 1次投票と2次投票  
**理事指名委員会**: 9-10月
  - ・**第7回日韓合同スライドカンファレンス**:  
11月1-3日(木-土)、倉敷にて  
真鍋理事がCongress President。日韓骨軟部腫瘍ジョイントカンファレンス、日本病理学会中国四国支部主催スライドカンファレンスも同時に開催の予定。
  - ・**第3回理事会**: 11月27日(火)  
東京・九段会館
  - ・**IAP教育シンポ、スライドセミナーと総会**:  
11月29日(木)、東京・信濃町の東医健保会館

鈴木 塞先生ご苦労様でした

前会長ご苦労様でした。先生には理事として1989-1991年、次期会長、会長、前会長として1992-2000年、理事指名委員長として1999-2000年の間、IAP日本支部のためにご尽力下さり、大変感謝しております。



(鈴木先生夫妻を囲んで、役員と秘書一同です)

前会長を終えられると今迄は名誉会員へ推薦し、総会にて承認の議決をするのですが、鈴木先生の何時までも現役でいたいとのたっての希望により今回は推举していません。IAP International Nagoya Congressを誘致するなど、また先生のご英断、ご英知また海外での幅広いご交友に随分と支部活動が助けられたことか、数々のご功績に対して報いる手段を示せず申し訳なく思っています。東京都内の役員で集まりささやかなお会いの会を1月29日の夜に霞が関ビルの東海大学同窓会館にて開催しました。先生にはまだ、理事指名委員会副委員長として2001-2003年の間勤めていただくことになっていますが、今後とも今迄通り率直なご意見、ご指導をお願いしたく願っています。長い間ありがとうございました。

遠城寺宗知先生有難うございました

前々会長の遠城寺宗知先生におかれましては理事指名委員会副委員長として1999-2000年の2年間勤めていただきましたが、任期が終わりました。理事指名委員会はUSCAPの真似で始めたのですが、理事再選が多くても困るなど、数々の問題点を指摘され、この制度の定着に大変役立つご意見を述べていただきました。また、遠城寺先生には理事として1978-1980年、1985-1987年、次期会長、会長、前会長として1989-1997年の間、IAP日本支部のためにご尽力下さり、大変感謝しております。大所高所よりの直截なアドバイス、ご意見は大変日本支部のために役立っています。1998年からは名誉会員になっていただいているが、役職を離れても今後とも日本支部のためにどうかご意見を今迄同様頂きたいと考えています。ますますご健康にご留意下さり、趣味の楽しい鉄道の旅を何時までも楽しめることを願っています。



## 根本則道先生、教育委員長に

日大医学部病理学



平成12年11月30日仙台市民会館で開かれた2000年度第3回IAP日本支部理事会において根本先生が、教育委員長（2001-2003年）に選ばれた。教育委員長は何かと忙しいので、根本先生には今後大変お世話になります。

### IAP本部への会員費送金

会員数599名 x US\$4.00=US\$2,396.00と

## 割引雑誌購読料

Laboratory Investigation 35名と Modern Pathology 71名分、  
合計 106名分 x US\$90.00 = US\$9,540.00

以上を2月1日に送金しました（rateは1US\$=117円）。

European Congress of Pathology

European Society of Pathology (会長 :M. Sobrinho-Simoes, M.D.) 主催の上記第18回学会が2001年9月8-13日にドイツのベルリンで開催される。興味のある方はemail: thomas.wiese@ctw-congress.de またはinternet: www.ctw-congress.de/pathologyで情報を得て下さい。参加して欲しい旨の連絡がありました。

# Surgical Pathology Update 2001 (SPU2001) 参加者募集します-----

IAP日本支部では国際的基準(Global standard)に基づく病理診断医(Surgical Pathologists)の育成と米国を中心とした外国の著名な病理医との交流をめざすことを目的に、全国から希望者50名を募り2泊3日の合宿（湘南国際村センター、神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39）により、米国から招聘した専門分野の講師および日本側のFacultyと共に講義実習を行うSPUを去年、初めて行いました。主催者側がいうのも手前みそですが、大変好評で、中身の濃い有意義なものだったと喜んでいます。この内容、参加者のご意見、感想は去年のプレティンNo.2に詳しく報告しました。

## テーマ：「卵巣腫瘍と甲状腺腫瘍」

日程： 6月15-17日（金-日）

客座：S.G. Silverberg 教授

University教授  
(Maryland大学)

LiVolsi教授

(Pennsylvania大学)

石倉 浩教授（千葉大）

加藤良平教授（山梨医大）  
+++++  
社団法人日本病理学会の後援を受けており、認定病理医の更新に10単位が得られます。

参加費は45,000円（昨年37,000円で大赤字となつたため、値上げせざるをえません、お許しを）で、宿泊費、会場費、食事代、事前の病理ガラススライド配付、当日のハンドアウトなどを含みます。

昨年のSPU2000は大変好評で、今回は多数の希望者が予想されます。3月末が締め切りで、定員を超えた場合は抽選とし、4月中旬に参加確定の連絡をしますので、参加費を支払って頂きます。抽選にもれた方は来年度に優先的に参加して頂けるようにしようと思います。

スライドセットとハンドアウトが余れば、これも優先的に有償でお譲りしようと思います。

参加希望者は、氏名、年齢、性別、所属、連絡先（住所、電話、FAX、e-mail）、IAP日本支部会員か非会員、日本病理学会員か非会員を明記の上、ファックスかe-mailで申し込んで下さい。

連絡はFAX: 042-996-5193、

e-mail : matubara@cc.ndmc.ac.jp で、

常任幹事：松原 修（防衛医科大学校）までにお願いします。

## 第7回日韓合同 スライドカンファレンス

11月2・3日（金・土）、倉敷にて  
真鍋理事がCongress President。

日韓骨軟部腫瘍ジョイントカンファレンス、日本病理学会中国四国支部主催スライドカンファレンスも同時に開催の予定です。どうぞ皆様予定を組んで、ご参加下さい。詳細はまたこのプレティンにも掲載します。  
\*\*\*\*\*

## 2000年病理学教育セミナー

教育シンポジウム：「21世紀の病理診断にむけての新しい技法」大好評

モデレーター：笹野公伸、津田 均

ハンドアウト在庫が事務局にありますので、希望者は事務局まで。

（笹野公伸先生、津田 均先生、会場風景）



ww

**事務局よりお願い**

**会員名簿発行へのご協力を-----**

IAP日本支部の会員名簿は2年ごとに発行することになります。2001/2002年版の発行にご協力下さいませんか。今はよろしければe-mail addressを書き込みたいと考えています。会員への連絡にemailが使えると大変便利になると思いまので、ご協力下さい。その他にも何かこうしたらというご意見がありましたらお知らせ下さい。

また、既にFAXを送られた方で、自宅の住所、電話番号、e-mail addressをのせないで欲しいと考えられる方はご連絡下さい。加えて、4月ごろ移動が多いかもしれません、その時は変更のご連絡下さい。

**あとがき：**2001年度第1号をお届けします。同時に本部IAP Bulletin No. 4を同封します。Robin Cooke編集長は一貫して温かい目で名古屋コングレス、日本の文化を見て下さった様子がよく分かります。常任幹事：松原 修／事務局：佐々木洋子 〒359-8513 所沢市並木3-2 防衛医科大学校2病理

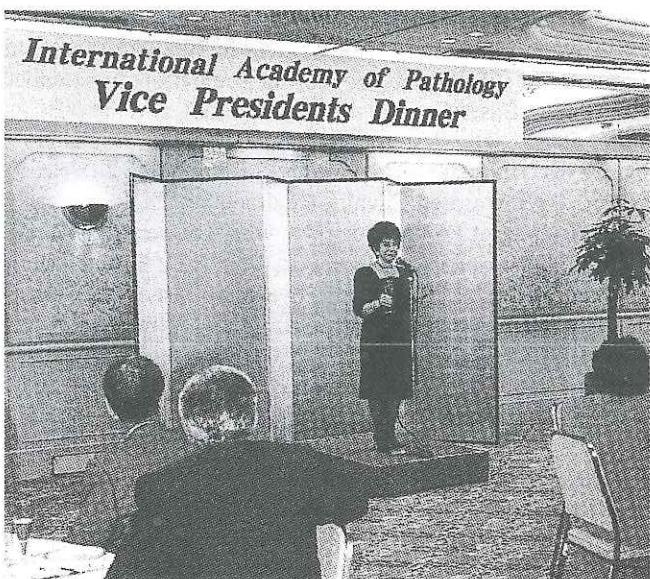
P: 042-995-1507 / F: 042-996-5193  
E-mail: matubara@cc.ndmc.ac.jp

the AFIP LETTER(158:6, 2000)から



### Dr. Mullick at XXIII International Congress of the International Academy of Pathology, Nagoya, Japan

AFIP Principal Deputy Director Florabel G. Mullick, MD, SES, DSc (Hon), Secretary, International Academy of Pathology (IAP), was greeted by the sister-in-law to the Emperor of Japan (left) at the IAP's opening ceremonies. Joining Dr. Mullick are Dr. Shinichiro Ushigome, President-Elect, IAP (rear), and Mrs. Leah Shander, International Congress Coordinator, IAP (right).



Also in Nagoya, Dr. Mullick gave the toast at the opening ceremonies of the IAP Vice Presidents dinner, sponsored by the American Registry of Pathology.